

次世代へ語り継ぐ平和への思い

平成19年度青少年ピースフォーラム

市では、平成元年に平和都市宣言を行いました。そして、平和事業の一環として、次世代を担う中学生を被爆地（長崎市）に派遣する事業を平成16年度から行っています。

今年も8月8日、9日の2日間、長崎市において開催された「青少年ピースフォーラム」に中学生3人を派遣しました。実際に目で見て肌で感じてもらうことで、原爆の恐ろしさ、平和の大切さについて、多くのことを学んでもらいました。



長崎の鐘



◀「原爆殉難教え子と教師の像」の前にて

▶原爆殉難者の冥福を祈り、再び原子爆弾が地球でさく裂しないように、この鐘を鳴らし続けようと、昭和52年に設置されました。
※広島や長崎に原爆が投下された日や終戦記念日に同報無線で流している鐘の音は、この「長崎の鐘」の音です

青少年ピースフォーラム

原子爆弾によって大きな被害を受けた長崎市が、戦争の悲惨さと原爆の恐ろしさ、平和の尊さについて、次世代を担う青少年に伝えるために平成5年以来毎年開催していて、今年で15回目になります。

主な内容は、被爆体験者の講話、爆心地付近にある被爆建造物巡り、8月9日の平和祈念式典への参加などです。

今年度の派遣について中学校から参加者を募集した結果、今井沙織さん（西中3年）・前島康宏さん（東中3年）・池田千華さん（双葉中3年）の3人を派遣し、当日は、全国から集った383人の青少年と交流を深めるとともに、平和の尊さについて思いを新たにしました。